

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 11月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491500876		
法人名	特定非営利活動法人 地域の絆		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 仁伍		
所在地	広島県福山市木之庄町四丁目4番26号 (電話) 084-983-2806		
自己評価作成日	平成23年8月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3491500876&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年8月31日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様のニーズを満たすために、事業所内のみでサービスを提供するのではなく、ご家族様を含めた、地域に対しての働きかけを行っている。
ご家族様とのコミュニケーションを円滑とれると良いという思いと、入所施設において異議申し立てができていくという現状から、第三者評価の機能を持たせる為、コミュニケーションツールの一つとして気づきノートを導入している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

認知症対応型共同生活介護ホーム 仁伍（以下、ホーム）は、地域の高齢者が安心して暮らし続けられる地域福祉の拠点となることをめざし、地域との「絆」を大切にされています。利用者や家族の意見は「さわやか処理票」「気づきノート」に記入してもらい、出された意見をミーティング等で検討して「自分らしく生きること」を大切にされたケアに取り組んでおられます。また、終末期ケアについては、契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し同意を得て、ホームとして最大限の支援ができるよう体制を整えられています。さらに、入居者が今まで慣れ親しんできた地域との関係が継続して生活できるよう、地域、職員、家族が一体となって支援されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（1F 遊々）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	採用時の面接において法人の理念を説明し、理解・共感できた方に働いてもらっている。地域の活動(廃品回収、町内清掃等)に積極的に参加している。	法人理念を基本にケアの視点に立ち、ホーム独自の「職員の宣言」を目標に掲げ、ミーティング時に職員全員で唱和されています。また、宣言の内容について、日々話し合い実践につなげられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	出社時、ご利用様との散歩の際に出会った方には必ず挨拶を行っている。地域の行事(ふれあいサロン、夏祭り等)へは、ご利用様、職員共に参加している。また、日々の散歩を通じ、地域の方との交流を図っている。	自治会に加入されています。地区の溝掃除に職員が参加したり、資源回収は入居者と積極的に参加したり、地域に溶け込む努力をされています。また、地域の祭りには出店されています。散歩の際には、地域住民への挨拶を心がけるなど、普段から気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを行い、地域との交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加し、地域住民とご利用様(認知症の方)との触れ合う機会を設けている。とんど、餅つき、鯉のぼり祭り、そうめん流し等の準備の段階から、ご利用様、と一緒に手伝って頂き、交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に開催し、ご家族様、町内会長、民生委員等の参加を頂き、ご意見、課題をもとにサービスの向上へ役立っている。	会議は家族代表、行政、地域包括支援センター職員、関係施設職員、町内会長、民生委員、社会福祉協議会職員、法人代表等のメンバーで構成され、2か月に1回開催されています。この度の会議では、掲示板の設置場所などを地域住民と協議されています。また、会議の内容は職員に伝達され、ホームの運営に活かされています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の場で事業所の活動報告を行い、他事業所の状況などを伝えて頂き参考にしている。事故報告等を通じ、連携を取れるように取り組んでいる。	市担当者とは申請・更新・相談・報告などの連携を図っています。運営推進会議メンバーとして意見交換を行うなど、協力関係を築くよう取り組んでおられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1年に1度、法人全職員を対象に権利擁護、身体拘束の研修を実施している。 ご利用者様が無断外出される際にも、止めるのではなく、見守りを行っている。 施錠については、防犯上19時～施錠を行い、それ以外の施錠は行っていない。 ご家族様よりおむついじりがあるご利用者様へミトンの使用を提案されたが、拘束になる旨を説明し、使用しない方向で対応した。</p>	<p>日中は施錠されていません。外出傾向のある入居者には、さりげなく声掛けしたり、一緒に出かけたり、安全面に配慮しつつ自由な暮らしができるよう支援されています。また、管理者は身体拘束や安全対策について研修会を企画し、職員への周知を図っています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>1年に1度、法人全職員を対象に権利擁護、虐待の研修を実施している。 不適切なケアが虐待につながることを認識し、GHIにおいて全体ミーティングを実施し、個人の持つ意見を話し合った。 不適切ケアを注意できる環境をつくる為に、”何でも言い合えるチーム”を目標に掲げ取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>1年に1度、法人全職員を対象に権利擁護についての研修を実施している。 社会福祉士会等の主催する成年後見等の研修に参加するよう研修案内等を回覧し、参加を促している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約事項について専門用語を使わないように説明している。また、その都度疑問点が無いかの確認を行い、契約書に押印頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>「さわやか処理票」、「気付きノート」を用いて、ご家族様のご意見・苦情を受け付けている。ここで上がった苦情等については、週1回開催しているミーティング時に話し合い、対策を立てている。</p>	<p>面会時など、日頃から家族とのコミュニケーションを大切にされています。また、入居者や家族からの意見・要望・相談は「さわやか処理票」に記入し、カンファレンスやミーティングには職員全員が参加し、入居者本位の運営に心がけておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	「何でもノート」を用いて意見等あれば職員に記載してもらい、週1回開催しているミーティングにて話し合いをしている。 また、職員のニーズ等は2回月に1回開催している管理者会議で情報をあげて対応している。	気づきや意見、アイデアは「何でもノート」を活用されています。記入内容は、ミーティングや申し送りで意見交換し、共有されています。さらに、職員から出された意見や提案は、母体法人の管理者会議に議題として持ち寄り、運営に反映させる仕組みも整えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	外部の研修等へ積極的に参加促し、個々人のスキルアップ、意欲の向上につながる環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各個人との面談を行い、目標設定の支援、具体的取組みを支持している。 事業所内・外の研修への参加を促している。 新人職員を対象にケアングレポートの実践を行い、不安、疑問点に随時答えられるよう取り組んでいる。 2週間に1回勉強会を実施して、スキル向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	タウンソーシャルワーク連絡会に参加し、他事業所との意見交流の場としている。 また、施設外研修へ参加することにより、同業者との意見交流を促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	接遇3つのルールを基に、敬語、同じ目線で接するようにし、訴えに対してわかりやすい言葉で確認しながら回答している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	目線を合わせる、敬語を使う等の基本的な事を踏まえ、相槌、繰り返し等の面接技法を用いながら、しっかりと傾聴するよう取り組んでいる。 「気付きノート」を用いてそれを基にご家族様と情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況を面接等で見極め、どんなことに困っているのか等を知り、支援するサービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	接遇3つのルールを基に命令形を使用せず、「〇〇して頂けますか？」と依頼系を用いて、尊敬の念を持って接し利用者が自己決定できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	GHでの様子を口頭や「気付きノート」を使用しお伝えし「まだ、こんなことが出来るんだ」という様な肯定的な側面をお伝えし、ご本人の思い等もお伝えし、一緒にケアについて考えて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの店(以前通われていた美容院)に訪れたり、生まれ育った場所へ行くなどしながら、会話の中でも回想し、ご本人の生活を大切にしている。	行きつけの理美容院に行った際に、馴染みの喫茶店マスターが会いに行き、団らんの時を持つ支援をされています。また、美術館に出かけたり、これまで通っていたデイサービスセンターの利用者と散歩ですれ違った時には世間話をしたり、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	面接時の情報により、出身地、趣味が同じなどの共通点があるご利用者様同士になるよう配置し、グループが形成していけるよう支援している。 また、活動を通して小グループができるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当ユニットでは、退居された方はおられない。ご家族様が来所された際には積極的にコミュニケーションをとり信頼関係の構築に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	週1回開催しているカンファレンス・ミーティング時に各ご利用者様の話し合いを行い、情報共有し、アセスメントを基にご本人様のニーズを導き出している。 なかなか意見の言えないご利用者様にはその時の思いを決定できるよう、2択にしたり、答えやすい状況を作り希望を尋ねるようにしている。	家族からの情報や利用者一人ひとりの表情・声の調子などの日々の様子、入居者の状態を把握されています。その人らしい暮らしを継続するために、得られた情報をケアに繋げるよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用開始前に生活歴等の把握を行い、日々の会話の中、ご家族様からの話などから、深めている。 日課の継続、得意だったことなどをご本人、ご家族様から得て、散歩や畑仕事、料理などの役割を提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ライフチャートを用い、日々の生活の把握を行っている。 また、「何でもノート」をユニット内で作成し、毎日気付いた事を記入し、週1回のミーティング時に振り返りを行っている。 ご利用者様間でのトラブルがあった場合、職員間で声をかけあい、状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>週1回のカンファレンス・ミーティング時に話し合い、職員間で情報を共有し、ご家族様、専門職、ご本人様のご意向を考慮しながら、ケアプランを作成している。</p>	<p>定期的見直しのほか、身体機能に変化があった時は、随時見直しが行われています。居室の入口近くに「気づきノート」を置き、家族に経過を知ってもらうようにされています。介護計画は、本人の希望や状況に沿った計画となるよう取り組まれています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ライフチャートに1日の様子、流れ等を記入し、申し送り(入居者日誌)を通し、情報の共有を図っている。 また特に気になる事等は、「何でもノート」に記入し、ミーティング時に話し合うようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>「気づきノート」やミーティング等からニーズの把握、状況に応じた支援・対応を行っている。利用者との会話のなかで「昔からの馴染みのある床屋へ髪を切りに行きたい。」と言う声があったので一緒に馴染みの床屋に散髪に出かけたりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事への参加や散歩等を通じて、近隣住民との交流を図っている。 また、身だしなみへの配慮等、社会交流の意識の残存機能を生かせるように取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>新規契約の際にはご利用者様のかかりつけ医を尋ね、GHの協力医療機関の説明をご本人、ご家族様に行い、希望のかかりつけ医を選択して頂いている。 またかかりつけ医に対し、ご利用者様の日々の状況を提供し、Drより情報等の支援を頂いている。</p>	<p>入居者の希望を優先し、入居前と同じかかりつけ医を利用できるよう支援されています。かかりつけ医への受診は、家族の付き添いが難しい場合には、職員が対応されています。ホームからは日頃の様子を書面で提供し、医師からは、提供した情報を踏まえた助言を受けるなど、綿密な連携がとられています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日中の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>ご利用者様の様子や状態を日々の記録やミーティング時に話し合い、都度情報共有し、連携を取っている。</p> <p>受診、往診時には、必ずご利用者様の状態をまとめ、Ns、Drlに伝え連携を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関を通して、入院先の病院との連携がスムーズに取れるように努めている。</p> <p>また、入院された際には、GH内でのご様子・状態を伝え、退院時には、日常生活を送る上での注意事項等の情報提供を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時の契約の際に、看取り介護についての説明を行っている。</p> <p>主治医よりターミナルの宣告を受けた際には、ご家族様、医療機関、関係者等に協力頂き、カンファレンスを開催し情報共有に努めている。</p>	<p>契約時にホームの方針を家族に説明し、同意を得られています。その段階を迎えた時には、再度話し合い、本人・家族の意向を大切に医師と職員が連携し、できる限りホームで、最期まで穏やかな暮らしができるよう取り組まれています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事業所開設研修にて、急変時の対応マニュアルの説明、AEDの取り扱いについても講習会を行った。</p> <p>また、ひやりはっと報告を基に事故発生の予防に努めている。</p> <p>その都度、緊急時の対応について、ミーティング内で確認している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時に備えて、防災訓練を地域住民等の力を借り行う予定。</p> <p>昨年度、町内会主催の防火訓練には、職員を参加させた。</p>	<p>ホーム開設前から町内会主催の防火訓練に参加されています。また、10月には地域と合同避難訓練が実施される予定です。必要に応じて運営推進委員会などを通して、災害に対する協力関係を築くよう努力されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎朝、朝礼時に接遇3つのルールを復唱し、確認している。 また、何でも言い合えるチームを目標に職員間での注意・喚起ができるように取り組んでいる。 居室、トイレ等への入室前には必ずノックをしてからと指導している。	職員は毎朝、朝礼時に「接遇のルール」を全員で唱和し、プライバシーを大切にするケアに取り組まれています。また、法人理念に沿ったケアを提供するために「何でも言い合えるチーム」を目標に掲げ、実際の介護現場面や日々の生活に活かされるよう取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様へ話しかける際にはゆっくりと目線を合わせている。また、〇〇して下さいとの命令形ではなく、〇〇して頂けませんかの依頼形を使い、自己決定ができるように声掛けしている。 食事、更衣等、職員の意向で決めるのではなく、物を提示する等し、ご利用者様の自己決定を引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様の思いや発言を大切にし、日々の暮らしを過ごして頂いている。 食事はご利用者様の個々のタイミングに応じて提供するようにしている。 新聞を読むことを日課にされているご利用者様に対しては、新聞が購読できるように勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴後等、以前より使用されていた化粧品などを使用して頂けるよう支援している。 また馴染みの美容院などへ行かれるように支援している。 起床時や入浴後等、服を一緒に選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材からメニューを決めたり、チラシやお店先で食べたいものを決める等し、献立を決めている。 ご利用者様の能力に応じて皮むき、盛り付け、味付け等をして頂いている。 ご利用者様から外食の声があれば外へ食べに行ったりすることもある。	入居者の能力を活かしながら職員と一緒に食材の下ごしらえ、調理、食器洗い、テーブル拭きなどが行われています。また、入居者の食べたい物を特売チラシや店先で一緒に決め、入居者の能力を発揮できる環境づくりに配慮されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量を記録に残し、水分量の確保を心掛けている。水分摂取が少ない方に対しては、ご本人の好みの物、ゼリー等を提供し水分量の確保に努めている。 糖尿病の方には、Dr、管理栄養士に相談の下、食べる量、栄養バランスの指導を受けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。 また、必要な方に対しては、食前にも行い、介入している。 ご利用者様に合わせてブラシを変えたり、舌ブラシを使用したりして、口腔内の清潔を保てるように心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ライフチャートに排泄の記入を行い、排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行っている。また、おむつの使用を減らし、布パンツへ移行できるように努めている。 下剤の調整を行いトイレでの排便を促している。 自力でパンツの上げ下ろしが出来るよう、紙パンツから布パンツに変更し、パッドを固定している。	一人ひとりの排泄パターンをライフチャートに記録して把握し、トイレに誘導されています。尿取りパットから布パンツへ変更した入居者や、本人から排尿の訴えが出始めるなど、着実に排泄の自立に向けて取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	事業所開設研修にて排泄関係、便秘に関する研修を開催した。 便秘傾向のご利用者様に対しては水分補給、食物繊維の多い食品を食べて頂けるよう取り組んでいる。 また、「のの字」マッサージを行ったり、腹圧をかけたりし、排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の入りたい時間、日に入浴して頂いている。 毎日入りたい方に対しては、毎日入浴を行っている。 入浴の際、仲の良いご利用者様と一緒に入浴され、会話を楽しまれている事もある。	入りたい時に入浴できるよう支援されています。また、入浴が嫌いな入居者には、無理強いせず声かけの工夫やタイミングを考えたり、仲の良い入居者と一緒に入ったり、家族の協力を得て銭湯に行くなど入浴を楽しめるよう支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>ご利用者様の状況に応じて、日中でも居室で休んで頂く等の対応をしている。</p> <p>不眠の方に対しては、夜間入浴を行って、睡眠の確保に努めている。また、日中の活動量を増やすことで、夜間しっかり眠れるように取り組んでいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人ファイルの処方録に、薬の一覧、作用、副作用等の説明書きをファイルしている。</p> <p>また服薬ミスを防ぐ為、個々の服薬状況の把握をミーティング時に行い、統一した対応ができるようにしている。症状等に変化があれば、都度かかりつけ医に相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活歴を取り入れ、散歩や菜園等の取り組みを行っている。</p> <p>個々に誕生日会を行ったり、おやつ作りを行ったり、その他やりたい事を尋ね取り入れるようにしている。</p> <p>ごみ捨て、皿洗い等、日々の役割を持ち活動されている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>広告等を見て外食へ出かける事もある。ご本人の希望に応じて外出できるように取り組んでいる。</p> <p>ご家族様による外出もっており、お墓参り、ドライブなどに出かけておられる。</p> <p>食材の買い出しの際、声掛けし職員と一緒に買い物へ出かけている。</p>	<p>入居者の体調をみながら、天気の良い日には、希望に応じ散歩や買い物を兼ねて、ドライブを楽しみ気晴らしができるよう取り組まれています。また、家族の協力を得て「出かける」という気持ちを大切にされた外出支援が行われています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お小遣いをご家族様より預かり、ご本人様が買い物に行きたい時は、職員と一緒に出掛け、お好きな物を購入して頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様が希望される場合は、ご家族様へ連絡を行っている。手紙等をご利用様が書かれたり、送られてきた物に対しては一緒に読んだりして、会話を膨らませている。手紙に気持ちを書くことで落ち着かれる場合もある。また、その思いをご家族様に伝わるよう面会時に手渡すようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感が感じられるように、壁に飾りをしたり、花を生けている。 エアコンでの温度調整ばかりに頼らず、朝や掃除時等に窓を開ける事で暑さや寒さを感じて頂いている。 毎月、ユニット内で新聞を作成している。	居間・台所・食堂が一体的な造りで、開放感があります。ゆったりとしたソファで、食後のテレビ観賞や新聞読みなど自由に時間を過ごせるよう配置されています。また、入居者の特技を活かした書道や絵画などを披露できる場にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室で広がる位置の固定はしていないが、集団による混乱が見られるご利用者様に対しては少人数での居場所の確保をしている。 また、ソファ等を活用し、テレビを見たり落ち着いた空間が出来るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身が長年使用されてきた物を持ち込んで頂いている。 ご家庭で、和室の畳で寝られていた方に対しては、ベッドを使用せず布団で休んで頂いている。 また、自宅で使用されていたタンスを配置したり、使い勝手が良い様に努めている。	居室は、一人ひとりの生活習慣を継続できるよう心がけられ、起居はベッドや畳など入居者の好みや習慣に合わせて安心して過ごせるよう配慮されています。朝晩、先祖に手を合わせていた入居者は、位牌を居室に持ち込むなど、これまでの生活習慣を大切にできるよう支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	移動時以外では、車いすを使用せず、下肢筋力の維持、姿勢を保てるように個々の状況にあったシーティングに取り組んでいる。 トイレにファンレストテーブルを設置し、ご本人様が前傾姿勢を保てるようにしている。		

V アウトカム項目（1F 遊々）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所 仁伍

作成日 平成 23 年 12 月 28 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランについて、立案、本人、家族への説明を終えるとカルテにとじているだけ（見直し、評価、変更等）の傾向になっている。	随時のプラン変更が行える。	・ライフサポートワークの導入。 ・1週間に1回のカンファレンス時の内容をプランに反映（書面上）する。	平成24年2月～平成24年5月
2	49	外出を行う際、車両の使用が重なってしまう事があり、待つて頂くことがある。	思う時に出かけられる。	グループホーム用の車両の配備。	平成24年1月下旬
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。